

第 255 回松本歯科大学大学院セミナー

日 時: 2012 年 5 月 17 日(木) 17 時 30 分~19 時 00 分

場 所: 実習館 2 階 総合歯科医学研究所セミナールーム

演 者: 中村 広一 氏(元・国立精神・神経センター病院・歯科医長)

タイトル: 精神障害者の歯科診療についてー統合失調症を中心にー

歯科診療に影響を及ぼす精神障害には統合失調症、気分障害(躁うつ病)、神経症(身体表現性障害など)、人格障害など様々なものがあります。ここでは代表的な精神障害であり対人関係の障害が特徴的とされる統合失調症に焦点を合わせ、本症患者の歯科診療に際してみられる問題点への対応のありかたについて私見を述べます。

統合失調症は脳の病気と考えられており、幻覚・妄想など特有の精神症状を有し、対人関係の障害を伴います。発生頻度は 1000 人中 7~9 人で稀とはいえません。近年、本症の精神科治療が外来主体となるに伴い、社会に暮らす本症患者が一般歯科診療所を訪れる機会が増加しています。その大多数は健常者と変わるところなく歯科治療が可能ですが、精神状態が不良な場合は種々の問題点を生じることがあります。これらの問題点には精神症状に関連するものと、服用中の抗精神病薬に関連するものがあります。

精神症状に関連する問題点としては、意思疎通の不良、強い不安、誤った思い込み(妄想)、奇異な反応や行動などがあり、歯科診療上の対応に困難をもたらすことがあります。本症患者の歯科治療にあたっては、受容的な態度で接して訴えに耳を傾けて愁訴を十分に把握する。わかりやすい説明を行って納得下に治療を行う。十分な対話を心がけながらゆっくりしたペースの治療を行うことなどが必要です。ここでは不合理的な治療を強く要求した症例を供覧して対応上の工夫を具体的に解説します。

一方、抗精神病薬の副作用に関連する問題点として抗コリン作用による唾液分泌低下が精神症状とあいまってしばしば歯疾の多発をもたらします。他の副作用として錐体外路症状があり種々の顎口腔症状を引き起こします。今回は顎関節脱臼、開咬などの症例を紹介します。

統合失調症患者の歯科診療においては、患者の訴えに耳を傾け、納得ずくの対応をすることが最も重要であることをあらためて強調したいと考えます。

\*現・独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター病院

## 参考論文

1. 中村広一:精神分裂病(統合失調症)患者における歯科診療上の問題点への対応をめぐって. Part 1 the Quintessence 22:421-426, 2003. /Part 2 the Quintessence 22:673-678, 2003.
2. 中村広一:統合失調症患者の歯科臨床 一第1報 診療場面における問題点一. 精神科治療学 21:765-769, 2006. 一第2報 抗精神病薬の副作用の影響および本症患者に特有の現象について一. 同 21:897-902, 2006.
3. 中村広一:統合失調症患者の歯科診療一問題点と対応一. 障害者歯科 27:541-547, 2006.
4. 中村広一:統合失調症患者の歯科診療-歯科心身医学的観点からみた問題点と対応-. 日歯心身 24:23-28, 2009.

## 著書(分担執筆)

1. 中村広一:精神障害を有する患者への対応. 歯科心身医学、日本歯科心身医学会編、医歯薬出版、東京、2003.
2. 中村廣一:精神疾患 小谷順一郎、田中義弘編 高齢者歯科医療-歯科医療につながる医学的知識一、永末書店、京都、2008.
3. 中村広一:精神病. 白川正順監著 ピンポイントで読むチームのための有病者歯科医療、クインテッセンス出版株式会社、東京、2008.
4. 中村広一:精神および行動の障害. 日本障害者歯科学会編 スペシャルニーズデンティストリー、障害者歯科、医歯薬出版、2009.